

平成 24 年度 豊見城市人・農地プラン作成事業事前調査アンケート

【実施日】平成 24 年 5 月 29 日

【対象者】平成 24 年度 豊見城市農薬適正使用講習会参加者
平成 24 年度 人・農地プラン作成事業説明会参加者

趣旨：当アンケートは市の策定する人・農地プランの参考及び作成過程で行われる地域の話し合い、検討会等での参考資料として行うものである。

総評：アンケートの結果から、地域農業をこのまま放っておくと 10 年後には問題が生じているとの答えが 72%と高い数字を表し、地域農家も危機感を抱いていると推察できる。

10 年後に生じる問題の内訳は、高齢化が進む (49%) 耕作放棄地が増加する (33%) 経営体がない (17%) と、いずれも担い手不足や農業離れが浮き彫りになったように思える。

豊見城市が抱える人と農地の問題のうち「人」に関して焦点を合わせてみると、やはり地域での青年就農者の不足があらわになり、「現在は必要ないが確保する必要がある」(56%)、「今すぐ確保する必要がある」(11%) を合わせると (67%) を示し、いずれも「青年就農者の候補がない」との回答が半数を占めることから、今以上の高齢化が懸念される結果となった。

個々の農家の後継者問題については「後継者の目処はついていない」との回答が 47%を占め、青年の農業離れが見て取れるのではないだろうか。

一方、農地の問題に目を向けると「現状維持」が (56%) と大きい値を示すが、「受け手となり規模拡大」(26%) という値に対し「農地の出し手となる」との回答が 4%と「農地を借りたくても土地がない」状況にある。

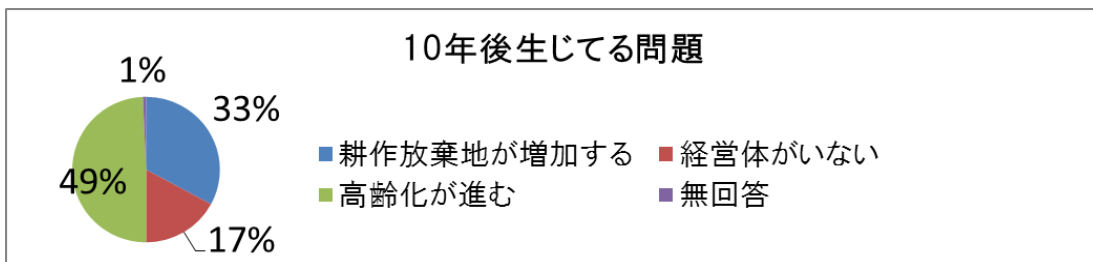
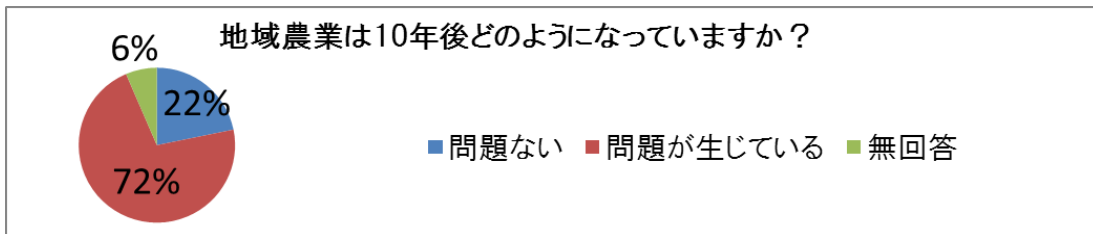
又、存在する経営体や今後経営体を創出し農地の集積が必要との回答が合わせて 84%に対し、出し手となる考えの人が 4%という結果を踏まえると「農地の集積が必要ではあるが、自分が農地の出し手になる思惑はない」と推察でき、高齢化問題と相俟って耕作放棄地増加の原因の一つになりうると懸念される。

以上の事から、担い手の問題、耕作放棄地問題、農家の減少はお互いに作用し、「持続可能農業の確立」、「問題解決に向けた施策」等が火急な課題と推察される。

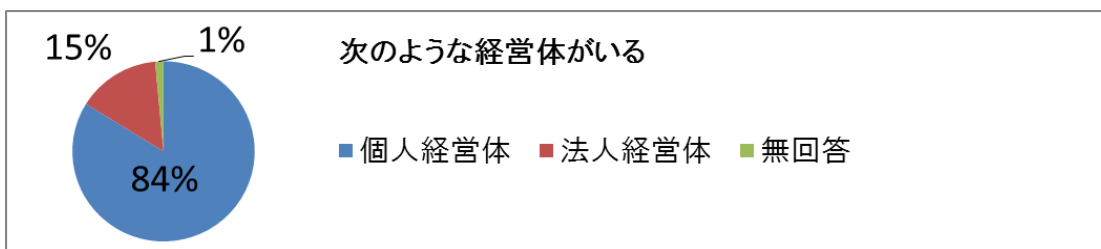
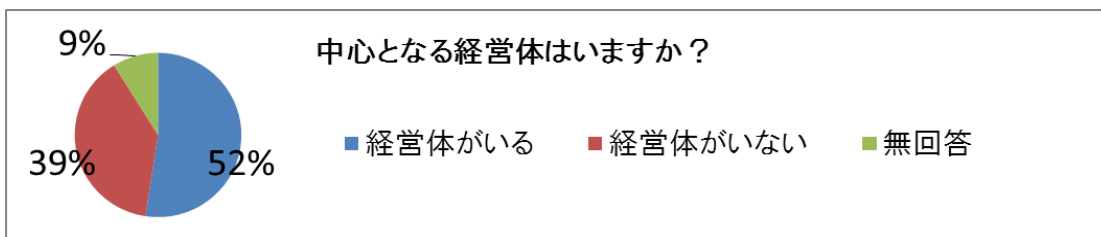
最後に農業に勤しむ中、アンケートにご協力いただいた皆様に感謝の意を表します。

作成 豊見城市 経済建設部 農林水産課

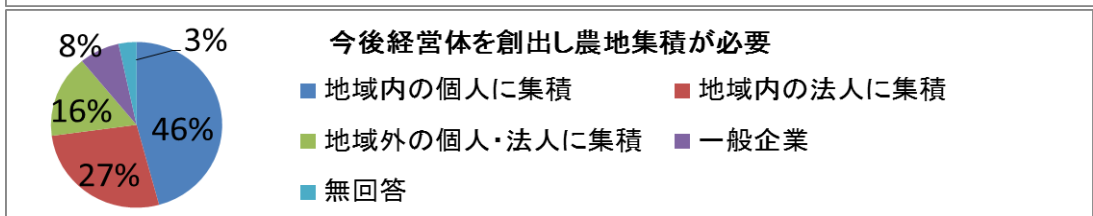
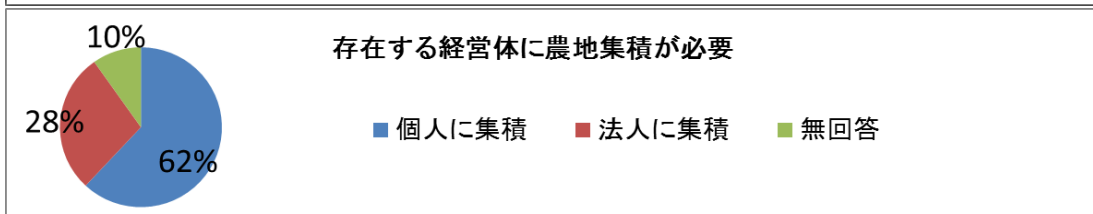
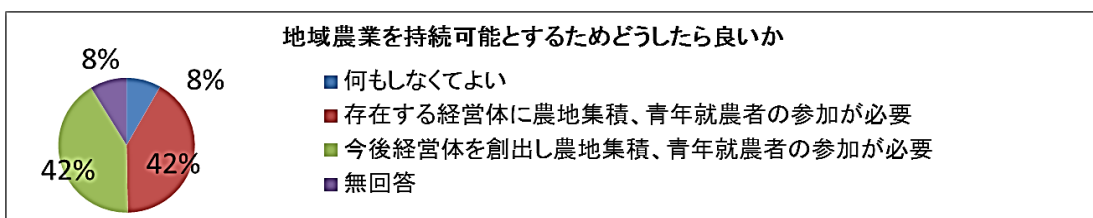
Q1.あなたの地域の農業は、放っておくと10年後にどのようなになっていると思いますか



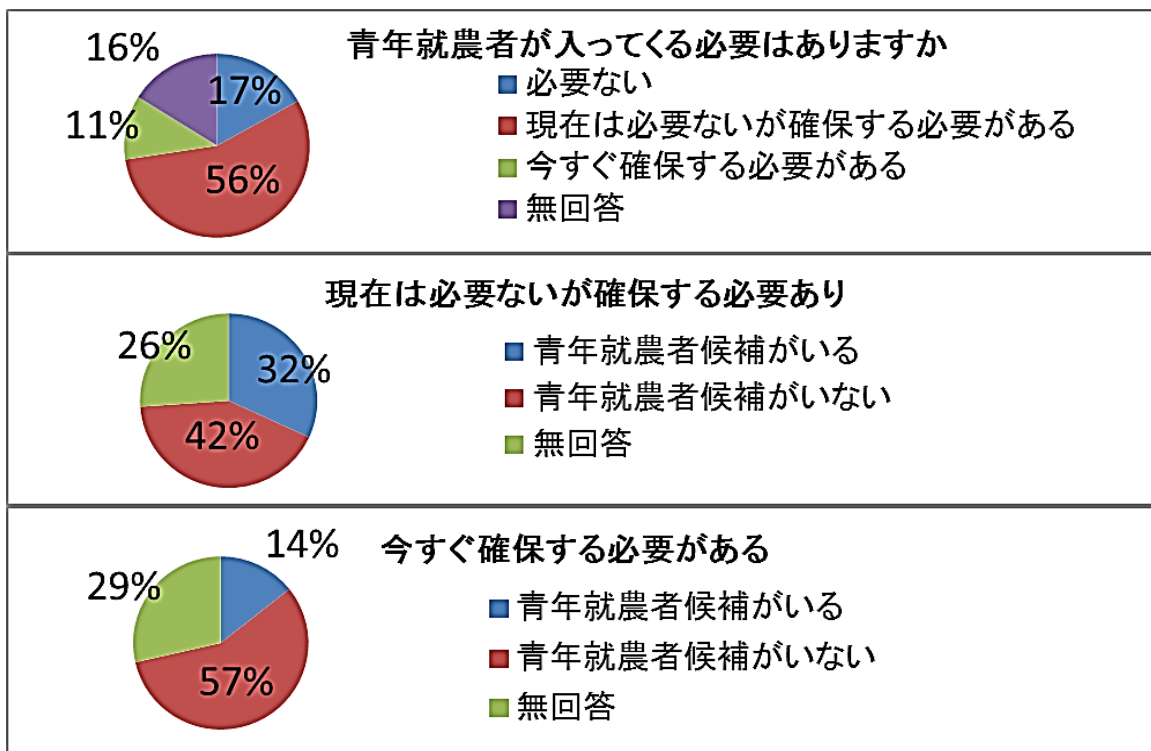
Q2.地域には、現在、今後の地域農業の中心となる経営体がありますか？



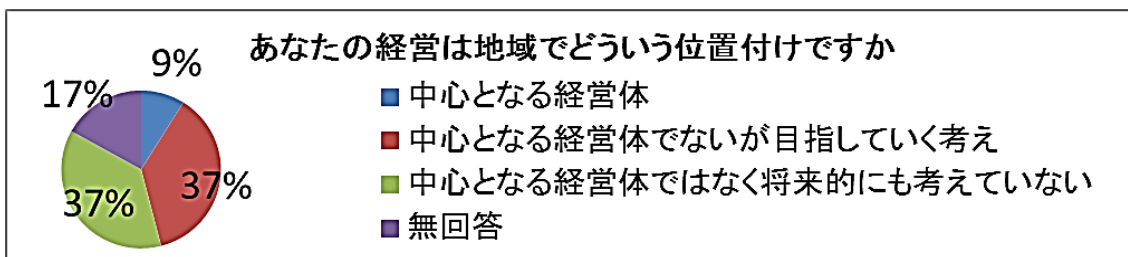
Q3.地域の農業を持続可能なものとするために、今後どうしたらよいと思いますか？



Q4.地域に青年就農者が入ってくる必要があると思いますか？

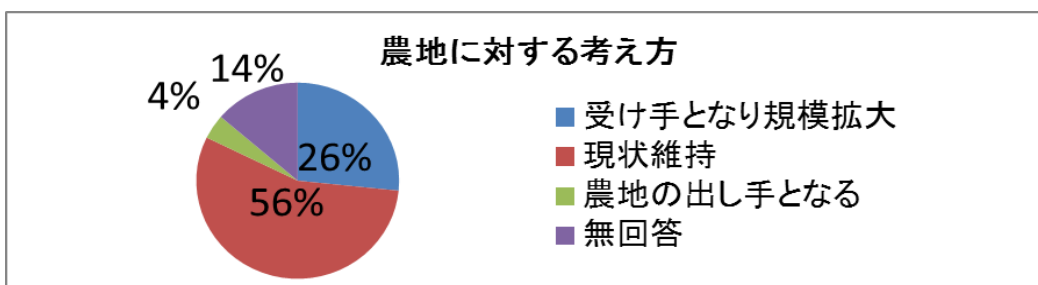


Q5.あなた自身の経営は、地域の中でどういう位置づけですか



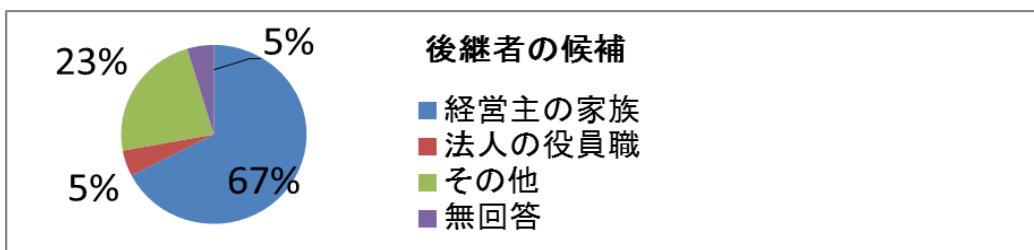
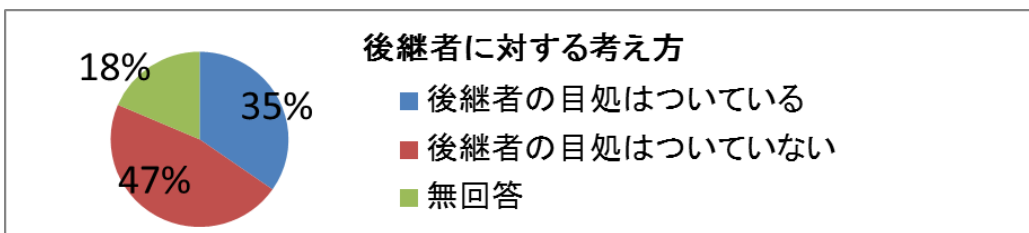
Q6.あなた自身の経営を今後どうしていくおつもりですか

【Q6-1】



Q6.あなた自身の経営を今後どうしていくおつもりですか

【Q6-2】



【Q6-3】 (複数回答あり)

